

受講番号 19074 学校名 香北中学校 氏名 安岡 未紗

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 36名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

全体的にみんな仲が良く、グループやペアでの活動は積極的に行える生徒が多い。英語学習へ積極的に取り組めない生徒がいる。

問題の確定

基礎的な単語や文が身に付いていない生徒がいる。得意な生徒と苦手な生徒の学力差が非常に大きい。

予備調査



A 授業の観察

ペアや班での活動はよくできているが、全体での本読みや発表となると声が出にくくなる。書く活動となると教師がついていないと、なかなか活動ができない生徒も数名いる。

B 生徒による授業評価

クラスの52%が英語が好きではないと答えている。4技能では特に書くことにおいて58%の生徒が好きではないと答えている。一方で50%が話す力、書く力を伸ばしたいと回答している。

C 学力データ

CRTの結果より(3月)4観点共に全国平均を下回っている。平均も56.1と低い結果が出ている。

リサーチ・クエスト



どの生徒も意欲的に取り組み、基礎的な英語の力(特に語彙、基本的な文)を伸ばすにはどのような取り組みをすればよいか。

仮説・実践・検証



仮説1



実践1



検証1

全体練習、ペアでの練習と学習形態を変化させることで、集中して取り組み、単語の読みと意味をしっかりと定着させることができるのではないか。

授業の最初に全体で教科書の重要単語をまとめたプリントを用い読む練習を行った。そのあとでペアになって英語から日本語、日本語から英語に口頭で言う活動を行った。ペアでの活動では、自由に組ませていたので苦手なもの同士がペアになったところ、仲はよいが学習に前向きではないペアはなかなか練習が進まない場合があった。そこで、隣のもの同士で机も向かい合わせにしての練習をするようにした。

自由にペアを組んでいたときは真面目に取り組むもの同士でないものの差が大きかった。隣同士で机を向かい合わせて練習をするようになってからは、全体的に真剣に取り組めるようになり、単語テストの結果に繋がってきている生徒もでてきた。

仮説2



実践2



検証2

実践1の練習を十分行い、読みと意味を確認したあとで書くテストを行ったら、より書けるようになるのではないか。

練習を2時間行い、三時間目に小テストを行った。32問程の小テストで、合格点は25点とした。合格しなかった場合は放課後に再テストを行った。

得意な生徒は、満点で得点できるように取り組んでいる。またペアで教え合いをしながらよく取り組んでいる。単語テストの得点率も伸びてきた。再テストを行ったが、読みや意味は理解できているものの、文字に書いて表すととなかなかできず、一問一答のような形で一緒に学習をした。その際生徒は積極的に取り組んでいたが、行事やその他の課題がある日も多く、指導の時間が定期的に取りえなかった。

仮説3



実践3



検証3

新出文型を導入した後に、その文型を少し変えるだけで自分のことについて書く練習を重ねていけば、英語が苦手な生徒にも負担がなく、また自分のこと、考えを書くので基本文が定着するのではないか。

新しい文型を導入し練習をした後に、その文型をもとに自分で文を作る課題を出す。辞書や参考のできる物を使い、できるだけ自分で書くようにする。また、例文をあらかじめ示したり、途中で早く文を書けた者に文を紹介してもらい、苦手な生徒でもその文をもとに文を作るよう指示した。また、生徒が書いた文をまとめたものを一緒に読みあい、クラスメートの書いた文を皆で共有した。

自分の好きなことなどを考えて文にすることは進んでできる生徒が多い。苦手な生徒でも、表現をしたいという思いが強い生徒は、どんだん文を書いていた。また、例文を少し変えるだけでもできる課題だったので、苦手な生徒も2文を目標にして書くことができた。しかし、定期テストでは語順が違っていたり、必要な言葉がなく、得点に結びついていなかったため、それぞれの授業後の家庭学習に繋がるような指導の工夫が必要である。

研究の成果



単語テストで、得点が伸びた生徒はペアで頑張っていた生徒である。1人でする努力ももちろん必要だが、工夫をして教師主導だけではなく生徒たちが生き生きと活動できる場面を作らなくてはいけないと思った。また、たとえ苦手意識を持っていても、英語で表現したいという思いを持っている生徒はいる。書くことが好きではない生徒が多かったが、自分で文を作ろうと頑張っていた姿があった。長期に亘り行ってきたことが少しでもそのような姿勢に繋がったのでまた更に工夫をし生徒の学ぶ喜びになっていくようにしたい。

今後の授業改善の課題

小テストで合格できる生徒が増えたものの、学習の定着にはまだ課題が残る。文字と音の一致があいまいな生徒がいるので、基本的なフォニックスはしっかりと定着させるように、短時間で何度も取り組んでいきたい。また、授業で、家庭学習についての課題を提示し、次時にそのチェックを小テスト等で行ってあげれば、成果も早く出、意欲にも繋がっていくだろう。学年で文単位で書く練習をしてきたが、60語程度の文章にもチャレンジしたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-59-2135